

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床化学Ⅱ	2年次	必修	講義	1単位（30時間）	小丸 圭一
授 業 概 要					
臨床化学検査は化学的手法により生体試料を分析する分野であるが、最も自動化が進んでおり検査結果の精度保証が要求される分野でもあるため、精度保証体系に基づく各種生体成分の測定法と基準範囲をもとに、検査データの解釈に必要な臨床的意義の習得を目指す。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・生化学的検査に必要な分析法、測定値の単位が理解できる。 ・精度管理に関する考え方が理解できる。 ・各測定項目の生化学的動態が理解できる。 ・各種生体物質の測定法と臨床的意義が理解できる。 ・各測定法の原理と特徴及び影響物質について説明できる。 					
実務経験のある教員					
学 習 内 容					
回	学 習 内 容				担当教員
1	タンパク質の測定法と臨床的意義：タンパク質の代謝、総蛋白、アルブミン				小丸 圭一
2	血清タンパク電気泳動法と蛋白質分画				
3	膠質反応、急性相反応物質、免疫グロブリン、その他のタンパク質				
4	非タンパク性窒素の測定法と臨床的意義：窒素代謝と病気、アンモニア、尿素窒素				
5	クレアチン・クレアチニン、尿酸、ビリルビン				
6	酵素の測定法と臨床的意義：酵素と疾患、乳酸デヒドロゲナーゼ、アミノ基転移酵素				
7	クレアチンキナーゼ、コリンエステラーゼ、γグルタミルトランスフェラーゼ				
8	アルカリ性ホスファターゼ、アミラーゼ、その他の酵素				
9	ホルモンの測定法と臨床的意義：下垂体・甲状腺、副腎髄質、消化管ホルモン				
10	内分泌異常症と機能検査				
11	ビタミンの測定法と臨床的意義：ビタミンの作用と欠乏症				
12	薬物及び毒物：関連物質血中薬物、毒物の測定意義、薬物、毒物				
13	疾患マーカー：疾患マーカーの測定法、正常範囲、代表的疾患マーカー				
14	各種機能検査と臨床的意義：肝・胆道系機能検査、膵機能検査				
15	循環器機能、腎機能検査、骨代謝機能、酸塩基平衡機能				
学 習 方 法					
教科書及び配付資料を用いて講義する。					
評 価 方 法					
・定期試験（70%）及び月曜試験（30%）により評価する。					
先 修 科 目					
生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、生化学Ⅲ					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床検査学講座 臨床化学検査学 浦山 修 他 医歯薬出版					
〔参考書〕 ・シンプル生化学 改訂第7版 林 典夫 他 南江堂 ・臨床検査法提要 改訂第35版 金原出版					